

地域おこし協力隊 奮闘記 Vol.28



今月は
数田佳奈が
書いています

フジロックで

大山をPR!

こんにちは、数田です。私は、苗場スキー場（新潟県）で毎年開催されているフジロックフェスティバル2016に参加し、大山をPRしてきました。

1997年から始まり、今年で20周年を迎えたフジロックは、国内外から様々なアーティストが集結する音楽イベント。今年は全3日（7月22～24日）の期間中に世界中から約12万5千人が集まりました。

フジロックは音楽だけでなく、様々な環境保全の活動や来場者が行っているほか、社会問題について活動する団体が集まりPRする「NGO VILLAGE」というエリアがあります。

今回の「NGO VILLAGE」にブースを出展し、日野・江府・大山の3町の地域おこし協力隊、イターン、ウターン

で鳥取に移住した仲間と一緒に、社会問題の一つとして取り上げられている『移住』や『地方暮らし』をテーマに、大山周辺地域の魅力を紹介しました。

また、顔が見える情報発信をコンセプトに、自分たちの拠点や活動内容のパネル展示、アニメーションワークショップ、竹キャンドル作り、大山ワワワ音頭を会場の皆さんと一緒に踊ったりもしました。



▲人・人・人。さすがフジロック

手ごたえを感じました。東日本ではまだまだ鳥取県の知名度は低く、日本のどこに位置するのかわからないところから始まる場面も多々ありました。



▶ 私たちのブースです



▲竹キャンドル作り



◀ 手作りの大山の模型

鳥取県内には約90人の協力隊がありますが、これまで連携して活動する機会はありませんでした。3町で一緒にPR活動をしたことで、大山を軸に自分の知らないエリアの紹介もでき、大山周辺地域について詳細かつ効果的に魅力を伝えることができました。

そして私たちのブースに来てくださった方と、しっかり繋がることを意識して、丁寧に対応を心がけたこともあり、「次の旅行地は大山にする!」「会いに行きます!」という声や、住んでみたいという問い合わせをたくさんいただき、

私にとって今回のフジロックの活動は、「PRするには」「移住するとは」を考えるのにとっても勉強になりました。一つの出会いで繋がりがきっかけとできれば、足を運ぶきっかけとなり、知らない土地から知っている土地に変わっていきます。それを積み重ねていくと、住んでいる人の顔や暮らしが見えてきて移住に繋がるのでは、と思いました。

この経験を活かして、今後も大山の魅力をさらに発信していきたいと思っています。